

# 『わかる』と『できる』の違い

「わかる」とは？

5月になり、定期テストが本格化する時期になりました。多くの生徒が頑張る姿を見て、今回は得意なところがあるから、頑張って勉強しようと思ってる子がいます。今回は得意なところがあるから、頑張って勉強しようと思ってる子がいます。今回は得意なところがあるから、頑張って勉強しようと思ってる子がいます。

「わかる」とは「知る」ということ。つまり、左の図を見てください。『楽器が弾けるようになるまでの流れ』と『数学の問題が解けるようになるまでの流れ』をまとめたいものです。勉強・スポーツ・楽器など、何かができるようになる流れはみんな同じです。

①本屋さんに行って「ギターの弾き方」の本を買って読む。

②ネットで「ギターの弾き方」の動画を探して、その動画を見る。

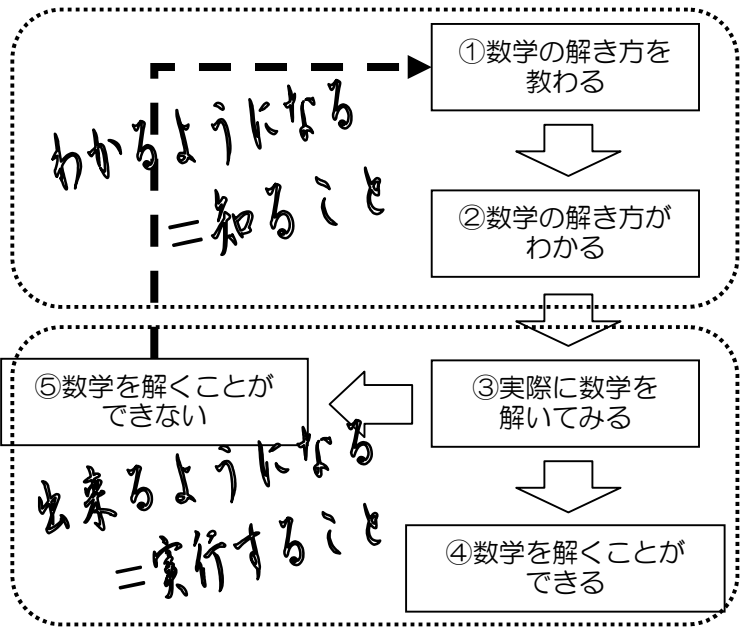
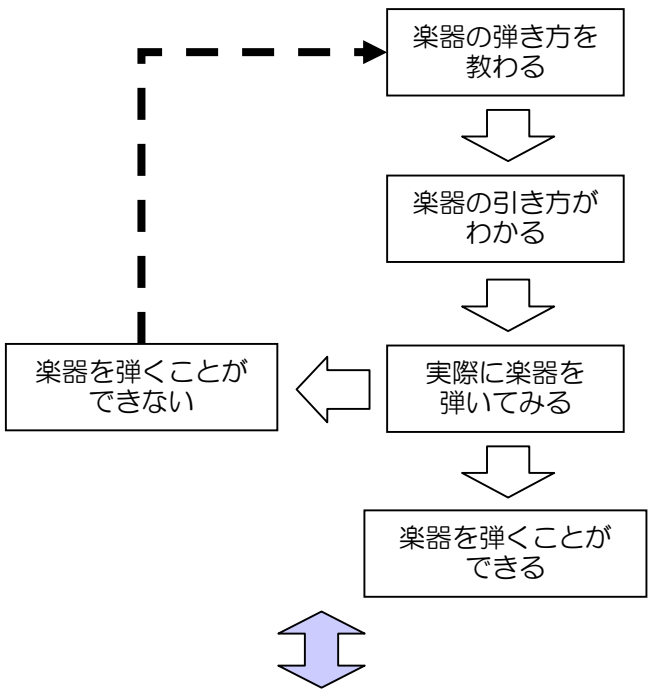
③ギターの弾き方を教えてくれるところに行って「ギターの弾き方」を教わる。

これらのような可能性があるので、是非一度、ギターの弾き方を数学の問題の解き方に置きかえてみます。

①教科書や参考書を読んで「数学の問題の解き方」を知る。

②ネットで映像授業を見て「数学の問題の解き方」を知る。

③塾に行って「数学の問題の解き方」を教わる。



「わかる」とは「知る」ということ。つまり、左の図を見てください。『楽器が弾けるようになるまでの流れ』と『数学の問題が解けるようになるまでの流れ』をまとめたいものです。勉強・スポーツ・楽器など、何かができるようになる流れはみんな同じです。

## 「わかる」と「できる」の違い

私たちがスタッフが生徒に「できる？」と聞くことはありません。生徒が「できる！」と言って、当然に出来るのは限らないからです。「できる」かどうかの判断方法はただ一つ。実際にやってみて「できた」かどうかしかありません。この「実際にやってみる」という行為が非常に大切です。

ワークの問題を解いているときに、答えを聞いて横においてやっている子は要注意です。この場合、左の図の①と②の作業をしています。実際に解いているのではなく、答えを写しているだけになっていくことが多いです。できる子は解き終わって丸付けするときには「答えを開きませぬ。きちんと③をして④なのか⑤なのか」が判断できています。そして、⑤のできなかったところを、教科書で復習したり、先生に質問したりする。つまり①に戻ることを行っているのです。

生徒「理社のワークが全然解けません。どうしたらいいですか？」

先生「教科書読んで用語覚えた？」

生徒「覚えてません。」

先生「じゃあ、まず教科書を読んで用語を覚えようね。」

生徒「何でもいいかな。③は無理です。もちろん①②もきちんとやらないと駄目ですよ。」